
キャンパス

雪子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
キャンバス

【Nコード】
N1787Q

【作者名】
雪子

【あらすじ】
あんた達との生活は、

すつごく色濃く残ると思う。

でも人間って何時かは忘れちゃうのよ。
だから、

（短編を纏めたような話）

（全部がR15なわけじゃないよ）

中学校最後の冬（前書き）

中学三年生の冬の話。

さよならが言いたくない一人の女子の話。

中学校最後の冬

友人がいるだけでこんなに明るく感じられる世界はまるでキャンバスに絵の具をちらしていく様だった。

この視界がキャンバスなら私たちは絵の具なんだろうか。

まあ、そんな事はどうでも良いの。

ただこの世界は偶然で沢山の色が出来ていくんだ。

私達の色が交わっていつて新しい何かが生まれると信じてる。
別に絵が好きとか得意とかでこんな表現をした訳ではない。

なんとなく、そう思ったからなのだ。

もう忘れたけど前に訪れた国の絵描きさんの様子を思い出したから。

中学校最後の冬（後書き）

何も書いてないのに後書きはキツイ。
まだ編集中って事で許してください。

B（前書き）

ああ、下がっちゃったよ。
どうしよう。

B

B、と記されたそれは酷く私にの目に焼き付いてしまったのである。

「おーすっ、どうだった？」

「わっ！　なな何よ、清野…」

先生に提出しなければならぬそれを皺がよるほど握り締めてる中後ろからの声に妙に驚いてしまった。

清野は中1からの付き合いで成績は私より上で出来た人間だった。

「おお、松下に清野。こっちに来なさい」

私らの担任は中年男だが髪は普通にあつたからかジジイと呼ばれてる事はなくて、そんなに評判も悪くなかった。

「清野は…、大丈夫だな。松下はどうした？　珍しいじゃないか」

私はそんなに成績は悪くなかったが三年になると一気に落ちた。それは私が馬鹿になったというより周りが一気に勉強を始めたからだった。

「すみません」

「でもまあBなら大丈夫だろう。頑張れよ」

はい、有り難うございますと私はどんな顔でいったんだろう。

上手く前を見れずにいて先生からテスト成績を返されると早足に職

員室を出た。

B（後書き）

主人公は松下さん。下の名前はまた後で。

自分を追い詰めやすい子です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1787q/>

キャンバス

2011年1月19日05時22分発行